



サモア語、タヒチ語、ハワイ語における一般的小辞f o ‘i / ho ‘iの分布について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 室蘭工業大学 公開日: 2017-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): Samoan, Tahitian, Hawaiian, General particles, Emphatic particles 作成者: 塩谷, 亨 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10258/00009166

サモア語、タヒチ語、ハワイ語における一般的小辞 *fo'i / ho'i* の分布について

塩谷 亨*1

On the Distribution of the General Particle *fo'i / ho'i* in Samoan, Tahitian, and Hawaiian

Toru SHIONOYA

(原稿受付日 平成 28 年 7 月 7 日 論文受理日 平成 29 年 2 月 10 日)

Abstract

The emphatic particle *fo'i* in Samoan and its cognate *ho'i* in Tahitian and Hawaiian are both general particles used very frequently. In this paper, the distribution of *fo'i* and *ho'i* in these three languages is examined to show similarity and difference among them. The general particle *fo'i / ho'i* in all of these three languages may appear at the end of a predicate phrase (which can be a verbal predicate, a nominal predicate, an interrogative, a negative, or a conjunction which occurs in the predicate position) or at the end of a non-predicate noun phrase. The general particle *fo'i* in Samoan and *ho'i* in Hawaiian can appear after a topic noun phrase. The general particle *fo'i* in Samoan and *ho'i* in Tahitian can occur between a determiner (which can be a demonstrative, a possessive, or a determiner “other”) and a noun. Each of these determiners can form a noun phrase without any following noun.

Keywords : Samoan, Tahitian, Hawaiian, General particles, Emphatic particles

1 はじめに

1.1 文及び句の構造と小辞について

サモア語、タヒチ語、ハワイ語は起源を同じくする同系言語グループであるポリネシア諸語に属し、お互いに文法的及び語彙的に類似している。ポリネシア諸語の欧米人による本格的な記述が始まった 19 世紀には、ポリネシア諸語はその近似性のため、ポリネシア諸方言と称され (例 : Hale(1838-1842))、一つの言語の諸方言であるとみなされていた。しかしながら、その後、記述研究が進み、お互いの様々な

*1 室蘭工業大学 ひと文化系領域

相違点が明らかになり、多くは独立した言語であると見なされるようになった。例えば、基礎語彙中の共通語彙の割合や相互理解度に基づき、Pawley (1967)は少なくとも 28 の言語、Biggs (1971)は 26 の言語に分類されるとしており、いずれの場合でも、今回取り上げるサモア語、タヒチ語、ハワイ語はそれぞれ独立した言語として扱われている。また、政治的にも、これらの三言語は、サモア、仏領ポリネシア、米国ハワイ州それぞれの公用語として制定されており、名実共に独立した言語とみなされている。

いずれの言語においても、一つの文は、述語となる名詞句又は動詞句、主語名詞句、及びその他の名詞句から構成される。基本的な語順としては、<述語名詞句/述語動詞句—主語名詞句—その他の名詞句>となる。このうち述語句は必須要素であるが、主語名詞句、その他の名詞句は現れない文も存在する。例文(1)は名詞句が述語となる文の、例文(2)は動詞句が述語となる文の例である。例文(2)は聖書の同じ部分のそれぞれの言語の翻訳である。以下、三つの言語の例文を対照する場合にはサモア語、タヒチ語、ハワイ語の順で提示することとし、それぞれ、サモア語の例文の前には (S)、タヒチ語の例文の前には (T)、ハワイ語の例文の前には(H)と表示する。

(1) <述語名詞句「マリアだ」><主語名詞句「彼女の名前は」>

(S) 'O	Malia	lona	igoa.
(T) 'O	Māria	tōna	i'oa.
(H) 'O	Malia	kona	inoa.
	～だ マリア	彼女の	名前
	「彼女の名前はマリアだ。」		

(2) <述語動詞句「見た」> <主語名詞句「神は」> <その他の名詞句「光を」>

(S) 'Ua	silasila	atu	le	Atua	i	le	mālamalama, ...	
	完了	見る	離散	定	神	～を	定	光
(T)	Hi'o	a'e-ra	te	Atua	i	te	māramarama, ...	
	見る	上方-遠称	定	神	～を	定	光	
(H)	Nānā	a'e-la	ke	Akua	i	ka	mālamalama, ...	
	見る	上方-遠称	定	神	～を	定	光	
	「神は光を見た、...」(創世記 1-4)							

名詞句と動詞句は、それぞれ、名詞と動詞を中核とし、その前後に様々な小辞が付加され、文法機能や副詞的機能が表示される。小辞は更にいくつかの語類に細分される。例文(1)と(2)に登場した小辞について言えば、例文(1)の'o (名詞述語を形成する)と例文(2)の i 「～を」は前置詞、例文(1)の lona / tona / kona 「彼女の」は所有限定詞、例文(2)の'ua<完了>は時制・相指標、atu<離散：話者から離れる方向>、a'e<上方：上に向かう方向>は方向詞、-ra / -la<遠称>は後置指示詞、le / te / ke (いずれも<定>を表す)は冠詞という語類にそれぞれ属している。

また、小辞はそれが付加される中核部分の種類により、名詞に付加される名詞的小辞、動詞に付加される動詞的小辞、名詞にも動詞にも付加される一般的小辞の三つの種類に大別することができる。上述の小辞のうち、前置詞、所有限定詞、冠詞は名詞的小辞に、時制・相指標は動詞的小辞に、それぞれ、分類される。残る二つ、方向詞、後置指示詞は、上記の例では動詞に付加されているが、名詞に付加される事もあり、一般的小辞に分類される。例えば、例文(2)の方向詞 atu<話者から離れる方向>、a'e<上に向かう方向>は例文(3)のように、名詞の後ろに付加され、空間的及び時間的な意味を加える。

(3) (S) tua atu o le nu'u
 背 離散 ~の 定 村
 「村の反対側」 Milner (1966:280)

(T) i te po'ipo'i a'e
 ～に 定 朝 上方
 「次の朝に」 Wahlroos (2002:351)

(H) kēia pule a'e
 この 週 上方
 「来週」 Pukui and Elbert (1986:3)

1.2 一般的小辞 fo'i / ho'i

本研究で取り上げる fo'i (サモア語)、ho'i (タヒチ語及びハワイ語) は一般的小辞に分類されるもので、細分化すると強調辞というグループに属するものである。いずれの言語でも極めて高い頻度で用いられる小辞である。タヒチ語とハワイ語では ho'i (音声表記[hoʔi]) と文字としても音声的にも同一であるが、サモア語の fo'i (音声表記[foʔi]) では語頭の子音が文字上も音声的にも他の二言語と差異を示している。しかしながら、これらは同起源の小辞である。ポリネシア祖語形として *foki が考えられ、表1で示されるように規則的に子音が対応している。尚、これらの言語では <'> は声門閉鎖音を示す文字として用いられている。サモア語、タヒチ語、ハワイ語の欄では上段に文字表記、下段に音声表記を示した。

表1 ポリネシア祖語とサモア語、タヒチ語、ハワイ語の子音の対応 Krupa (1982:18-19)

ポリネシア祖語	サモア語	タヒチ語	ハワイ語
*f	f [f]	f/h/v [f]/[h]/[v]	h/w [h]/[v 又は w]
*k	' [ʔ]	' [ʔ]	' [ʔ]

サモア語、タヒチ語、ハワイ語の一般的小辞 fo'i / ho'i の基本的な機能は例(4)が示すように、それが付加された語の強調である。以下、例文中の一般的小辞 fo'i / ho'i に下線を付して表示し、強調される要素について和訳の該当部分を太字で表記する。

(4) (H) Ola ho'i ke kanaka!!
 生きる 強調 定 人
 「(生贄にされようとしていたが、) その人は**助命された**。」 Fornander (1916-1917:141)

例文(4)は、生贄となって死ぬはずだった人が実に生きることになったという状況であり、一般的小辞 ho'i が ola「生きる」を強調している。fo'i / ho'i は多様な状況で強調に用いられ、文脈によって、様々な意味合いで使われる。例えば、強調される要素と同等のもの・ことが先行する文脈で fo'i / ho'i が登場している場合には、例文(5)のように、fo'i / ho'i は「もまた」のような累加的な意味合いを帯びる。

(5) (S) ...ma se 'ato ua i ai ni afitalo se lua, ni moa se lua
 ～と 不定 かご 完了 在る 不定・複 タロイモ 不定・単 二つ 不定・複 鶏 不定・単 二つ
 ma ni i'a fo'i,...
 ～と 不定・複 魚 強調
 「タロイモ二つ、鶏二羽と**魚も**入っているかごと...」 Steubel and Herman (1987:86)

尚、fo'i (サモア語) 及び ho'i (タヒチ語及びハワイ語) という形式には上述の一般的小辞の他に、例文(6)に示すような一般動詞の意味もあり、これも三つの言語に共通である。

(6) (S) 'Ua fo'i mai le tama.

完了 戻る 接近 定冠 少年

「少年は戻った。」 Milner (1966:68)

(T) 'Ua ho'i te taote i te fare.

完了 戻る 定冠 医師 ～に 定冠 家

「医師は家に戻った。」 Académie tahitienne (1999:198)

(H) E ho'i mai.

命令 戻る 接近

「戻ってきて。」 Pukui and Elbert (1982:75)

1.3 本稿の目的と構成

本稿では、サモア語、タヒチ語、ハワイ語の fo'i/ho'i の用例について、特に文中での分布に着目し分析をする。三つの言語間の類似点、相違点を明らかにすると共に、三つの異なる言語のデータを対照する事により、それぞれの言語における fo'i/ho'i の特徴をより鮮明にすることを旨とする。また、それを通して、元々同一であったものが、各言語に分かれて、どのように変化していったのか、について考察する。

第2節では、それぞれの言語の先行研究において fo'i/ho'i がどのように記述されているか提示し、特に、文中のどの位置に表れると指摘されてきたか整理すると共に、三つの言語について比較する上で注意すべき点もまとめる。第3節では、様々な文中の位置について、それぞれの言語で fo'i/ho'i が表れている例があるかどうか示す。第4節は考察として、三つの言語の間で観察された差異、fo'i/ho'i の文中での分布について特に注目すべき点について述べる。

データについては、近年ネイティブスピーカーの減少から話し言葉データを入手するのが困難なハワイ語に合わせるため専ら文字データを用いる。これらの三言語は、いずれも、ローマンアルファベットを利用した文字システムが19世紀に考案され、それ以降、聖書、法律、学校教材、小説、伝統文化の記録等の各種出版物、更には新聞の発行もなされ、文字言語が確立した言語であり豊富な文字言語データの蓄積がある。ジャンルとしては、伝統習慣、伝承伝説、歴史、ニュース、法律、物語、解説、聖書などできるだけ多様なデータを利用した。以下、それぞれの例文には出典（ページ数含む）を示すが、聖書については参照の便宜のため、「創世記 1-4」のように<書物名 章-文番号>のように表記する。

2 先行研究

2.1 サモア語

Pratt(1911:79, 149)では、fo'i の意味は"also"であり文を結合するものであるが、もう一つ、意味を弱める指小辞としての用法もあると指摘している。Churchward(1951:108)も fo'i の意味は"and / also"で述語の後ろに用いられて文を結合する用法があるとした上で、その用法では文末に来ることは稀であり、文末に来る場合には全く別の意味（意味を弱める）を表し独特のイントネーションが伴う、としている。Milner(1966:68)は、fo'i の用法を名詞や動詞に後置される場合と前置される場合に分け、前者の意味として複数の要素を結合する"also"と意味を弱める"quite, fairly / slightly / more or less, none too"を挙げ、後者の意味として強調的な"very / actual"を挙げている。Mosel and Hovdhaugen (1992:71, 151, 325, 390)は fo'i の意味として"also / just / quite"という強調的な意味と"more or less"というむしろ弱化的な意味を示した上で強調辞と分類し、名詞句と動詞句において、名詞・動詞に後置される、としているが、その他に、指示詞に後置されてそれを強調する用法の存在にも言及している。尚、強調的な用法と意味を弱める用法の関係については3.1.5節で考察する。

2.2 タヒチ語

19世紀に出版された辞書の復刻版である Davies(1978:107)には ho'i の意味として、"also / beside /

likewise"が挙げられている。Lemaître (1995:58)には「もまた」/「同じく」/「しっかりと」/「本当に」を ho'i の意味として挙げている。Académie tahitienne(1986:381-389)では、ho'i はすでに談話で述べられた要素に言及し ho'i が付加されている語とのつながりを示すものとして二つあるいはそれ以上の名詞や代名詞あるいは動詞や形容詞を結びつけるのに用いられると述べている他、「確かに/なぜなら」或いは「しかしながら/それでも」のような意味も表すと指摘している。Lazard et Peltzer (2000:117-118)は先行する要素との間につながりを確立する「もまた/同じく」、或いは、単に断定を強調する「本当に」の意味を表すと述べ、更に、ho'i を含むいくつかの小辞は述語句末でよく用いられるが。冠詞の後にも用いることができる」と指摘している。

2.3 ハワイ語

共に 19 世紀に出版されたものの復刻版である Alexander(2004:23)と Andrews (2003:164) はそれぞれ "also / certainly" という意味を表す副詞/接続詞、"also / besides / moreover / indeed" を意味する強調語としている。Elbert and Pukui (1979:41,103)によれば ho'i の表す意味は 1)一般的な強調辞と 2)「もまた」(否定文も含む)があり文脈により解釈が異なるとした上で、疑問詞句末に付加して疑念の意味を強調することもであると指摘し、また、現れる位置としては名詞句又は動詞句の最後としている。

2.4 先行研究のまとめ

三つの言語での fo'i 及び ho'i の意味については、サモア語の意味を強めるのではなくむしろ弱める特殊な用法を除いては、大きな差はみられない。サモア語やタヒチ語についての 19 世紀から 20 世紀の半ば頃までの記述 (Pratt(1911)、Churchward(1951)、Davies(1978{オリジナルは 1851 年})) では「もまた」のような意味を表すという記述が主であったが、より新しいサモア語やタヒチ語の記述及びハワイ語の記述 (Milner (1966)、Mosel and Hovdhaugen (1992)、Lemaître (1995)、Académie tahitienne(1985)、Lazard et Peltzer (2000)、Alexander (2004)、Andrews (2003)、Elber and Pukui (1979)) においては、「もまた」に加えて「本当に」のような強調的な意味も表すと記述されている。

本稿では、意味の詳細な分析よりも、文中での分布の分析に専念するが、意味については、一般的強調が基本的な用法であり、文脈により、「も」等の様々な解釈が派生すると考える。例えば、強調される要素の前に同種の関連要素がある場合には、「も」という解釈になる等と説明する。

文中で現れる位置分布であるが、先行研究を見比べると、述語句の後とするものもあるが、述語に限らず名詞句や動詞句の後ろとするもの、更には、否定文での使用、疑問詞の後ろに現れるとするものがあった。また、句中の位置については、句の後ろに現れる場合について、句末と明示しているものとしていないものがあったが、明示していない場合でも、提示されている例は句末であった。また、句の中核部の前に現れるという特殊な用例については、サモア語では指示詞の後、タヒチ語では指示詞も含めた冠詞の後と微妙に異なっており、ハワイ語ではこのような句の中核部の前に現れるという用例には一切言及がなかった。

上記のことを踏まえて、第 2 節では三つの言語のうち一部の言語でも fo'i~ho'i が表れる可能性がある位置を全て網羅するため、次のように分類する。まず、多くの先行研究で言及されている述語句末と、非述語句末の二つに分ける。述語句末としては、述語名詞句末、述語動詞句末に加えて、その他、述語の位置にくることがある疑問詞句末、否定詞句末をそれぞれ含める。また、サモア語の意味を弱める fo'i の用法についても述語句に該当していたためここに含める。非述語句末としては、非述語名詞句末の他、先行研究では言及されていなかったが今回の研究で多数の例が見られたトピック名詞句末と接続詞句末も扱う。また、それらとは別に、サモア語とタヒチ語でのみで言及されていた指示詞或いは限定詞と名詞の間に表れる fo'i~ho'i を一つのグループとして見ることとし、ここでは、報告されていないハワイ語にはそれが見られないのかを確認する。

3 分布

3.1 述語句末

3.1.1 述語名詞句末

述語名詞句末には全ての言語で fo'i~ho'i が表れる例があった。

(7) (S) 'O Salevao 'o le tagata, 'o le aitu fo'i.

固有名詞 Salevao ~だ 定 人 ~だ 定 魔物 強調

「サレヴァオは人であり、**魔物でも**あった。」 Steubel and Herman (1987:62)

(T) E patu 'ōfa'i, e vāhi ha'amorira'a ho'i.

~だ 壁 石 ~だ 場所 崇拜する 強調

「(マラエ (伝統寺院) は)石の壁であり、**崇拜の場所でも**あった。」 Saura (1997:20)

(H) 'O Makali'i, he ho'okele kaulana ia no nā wa'a 'o Hawai'i-nui,

固有名詞 Makalii ~だ 舵取り 有名な 彼 ~の 複数 船 固有名詞 Hawaiiinui

a he kanaka mahi'ai nui ho'i.

そして ~だ 人 農業 偉大な 強調

「マカリイはカヌーハワイヌイの有名な舵取りで、**偉大な農夫でも**あった。」 Beckwith (2007:79)

3.1.2 述語動詞句末

述語動詞句末にも全ての言語で fo'i~ho'i が表れる例があった。

(8) (S) E lē fetau ona sau fo'i lea o le tama'ita'ine i Toga,

未完了 否定 満足する それから 来る 強調 この ~の 定 女性 この ~に トンガ

ma fai fo'i ma ana tāne le ali'i 'o Tuitoga.

そして なる 強調 ~に 彼女の 夫 定 王 固有名詞 Tuitoga

「(フィジーに到着し、フィジー王を夫としたが、満足しなくて) この女性はトンガに行き、トンガ王が彼女の夫となった。」 Steubel and Herman (1987:13)

(T) ..., ua fa'aturehia te mau huru tao'a e au ia fa'a'ohipahia

完了 規則化する-受動 定 複数 種類 素材 未完了 適した ~するために 使う-受動

nō te 'ahu, 'ia fa'aturahia ho'i te mau tao'a no roto

~に 定 衣服 ~するために 尊重する-受動 強調 定 複数 素材 ~の中

i te peu tumu.

~に 定 伝統

「衣装のために使われるのに適した素材の種類が規則化された、伝統の中の素材が**尊重されるように**。」 Musée de Tahiti et des îles (2002:26)

(H) ...a ua make ho'i ke'li'i o Maui, ...

そして 完了 死んだ 強調 定冠-領主 ~の マウイ

「(戦争で敵の民や貴族たちを殺戮し始め…) ...そしてマウイの領主が**死んだ**…」

Fornander (1916-1917: 255)

3.1.3 疑問詞句末

これらの言語では、いずれも、疑問詞句は述語位置に現れる。疑問詞句末にも全ての言語で fo'i~ho'i が表れる例があった。

(9) (S) po 'o ai na mua'i 'aināina ai, a 'o anafea fo'i.
 疑問 ~だ 誰 過去 最初に 居住する 前方照応 そして ~だ いつ・過去 強調
 「(その島に) 最初に居住したのは誰か、そして、いつ (居住したの) か」 Henry (1980:90)

(T) e aha ho'i ta'u i rave i to'u hoe-roa-ra'a i Pora Pora?
 ~だ 何 強調 私の 完了 する ~に 私の 渡航すること ~に ボラボラ
 「ボラボラに渡った時私は何をした。」 Saura (1997:186)

(H) Pehea ho'i?
 どうして 強調
 「まったくどうして、(私にはわからない)。」 Pukui and Elbert (1986:75)

3.1.4 述語否定詞句末

タヒチ語とハワイ語の否定文においては、否定詞が述語句を形成し、述語位置に表れる。両言語で、述語否定詞句末に ho'i が表れる例があった。

(10) (T) ..., e'ita ho'i tā'u e nehenehe 'ia vaiiho mai iā na,
 否定・未完了 強調 私の 未完了 できる ~するように 放置する 接近 ~を 彼
 e pe'ape'a ho'i tōna metua tāne. Feruri iho ra te 'orometua,
 未完了 心配する 強調 彼の 父 考える 下方 遠称 定 教師
 'aita ho'i e rāve'a.
 否定・完了 強調 ~だ 手段
 「彼を放って置くことは出来ない、彼の父が心配するだろう。教師は考えた、出来ることはない。」
 Saura et Millaud (2001:155-6)

(H) 'a'ole 'oe e kama'ilio iki aku i kekahi mea 'ē a'e,
 否定 あなた 未完了 話す 少し 離散 ~に 一人の 人 他の 上方
 'a'ole i kekahi kāne, 'a'ole ho'i i kekahi wahine,...
 否定 ~に 一人の 男 否定 強調 ~に 一人の 女
 「あなたは他の誰にも話しかけない、一人の男に (話しかけ) ない、一人の女に (話しかけ) ない。」 Haleole (1997:499)

タヒチ語では e'ita、'aita、ハワイ語では 'a'ole がそれぞれ否定述語句として述語の位置に表れている。サモア語では否定文は、否定語が述語位置に来るのではなく、否定の小辞が動詞や名詞に付加することで形成されるため、上記の例文(10)に対応するような構造を持たない。次の(11)はサモア語の否定文の例である。

(11) (S) Sa lē mafai ona toe fo'i,...
 過去 否定 できる ~すること 再び 戻る
 「再び戻ることは出来ない。」 Sio (1984:13)

例文(11)では、否定の小辞 lē が動詞 mafai 「可能である」に前置されている。従って、この文の述語の中核部分はいくまでも動詞 mafai である。一方、上記の例文(10)では、否定語であるタヒチ語の e'ita、'aita とハワイ語の 'a'ole がそれぞれ述語の中核をなしているという点で、否定文の作り方が大きく異なっている。サモア語にはタヒチ語の e'ita、'aita やハワイ語の 'a'ole に対応する述語否定詞がそもそも存在しないため、述語否定詞句末でのサモア語とタヒチ語・ハワイ語との対照は意味をなさない。

3.1.5 意味の弱化を表す述語動詞句末の特殊な事例

サモア語においてのみ、意味を強調するのではなくむしろ弱化するような用法が報告されていた。いずれの報告においてもすべて述語動詞句末であった。

(12a) (S) ‘Ua lelei fo‘i.

完了 良い強調？

「良い（しかしとても良いわけではない）」 Churchward (1951:108)

(12b) (S) Sa ua fo‘i.

過去 雨が降る 強調？

「雨が降った（がたくさん降ったわけではない）」 Pratt (1977:149)

サモア語における意味を弱める用法は他の二言語では見られないので、サモア語のみの特徴と思われる。これらは、真の意味での強調とは言えないかもしれないが、或いは、これらも基本的には強調であるがある特殊な文脈でこのような解釈となった、或いは特殊なレトリック的な用法であるという可能性も考えられる。

例えば、一つの可能な説明としては、(12a)も(12b)も良さの程度や雨の量については消極的に述べている一方で、「良さの程度はともあれ良いことは良い」、「雨量はともあれ雨が降ったことは降った」のように、それぞれ「良い」、「雨が降った」という事実の存在についてはむしろ明確に示していると考えられる。すなわち、「良い」、「雨が降った」という事実について強調するという意味で、強調の用法の一つとみなすことができるのではないかと考えられる。

3.2 非述語句末

3.2.1 非述語名詞句末

述語以外の名詞句末について、全ての言語で fo‘i~ho‘i が表れる例があった。

(13) (S) ...ma se ‘ato ua i ai ni afitalo se lua, ni moa se lua
 ~と 不定 かご 完了 ある 不定・複数 タロイモ 不定 二つ 不定・複数 鶏 不定 二つ~
 ma ni i‘a fo‘i,...

~と 不定・複数 魚 強調

「タロイモ二つ、鶏二匹、と魚も入ったかごと...」 Steubel and Herman (1987:86)

(T) ‘Ua riro te matahiti 1812 e te matahiti 1813 ‘ei matahiti ta‘a roa
 完了 なる 定年 ~と 定年 ~に 年 特別な とても

nō te fa‘aro‘o ‘evaneria i ‘Eimeo, e Tahiti ho‘i.

~のため 定 信じる 福音 ~で モーレア島 ~と タヒチ島 強調

「1812年と1813年はモーレア島とタヒチ島で福音の信仰のためとても特別な年になった。」

Daubard,et Millaud (2000:42)

(H) A i loa‘a ‘ole malaila, hele nō ia ma kahi kauhale,

そして ~なら 得られる 否定 そこで 行く 強調 それ ~で ある 村

e ‘imi hipa a i kao ho‘i.

未完了 探す 羊 そして ~を 山羊 強調

「(豹は) そこで獲物が得られなければ、村に行き羊やヤギを探す。」 Mookini (1985:107)

例文(13)(S)では主語名詞句、(13)(T)では場所名詞句、(13)(H)では目的語名詞句が強調されている。

3.2.3 トピック名詞句末

これらの言語では、トピック名詞句が文の冒頭に表れることがある。サモア語とハワイ語ではトピック

ク名詞句末にいずれも、fo'i~ho'i が表れる例があった。

- (14) (S) A 'o taulelea fo'i, e tutusa lo lā matutua, e tutusa
 そして トピック 若者・複数 強調 未完了 同じ 彼らの 年 未完了 同じ
 le fuaitino lelei malolosi, ua fetau lelei lava la lā paga.
 定 体つき 良い 強い 完了 合う 良く ととも 彼らの 相手
 「そして**その若者たちは**、年も同じ、強く良い体つきも同じである、(対戦の) 相手はとともよく
 適合している。」 Henry (1980:21).
- (H) ... a 'o Aiwohikupua ho'i, apo aku la ma nā po'ohiwi o kāna kauwā,
 そして トピック Aiwohikupua 強調 抱く 離散 遠称 ~で 複数 肩 ~の 彼の 家来
 a uwe helu iho la.
 そして 泣き叫ぶ 下方 遠称
 「そして**アイヴォヒクプア**は、彼の家来の肩を抱き泣き叫んだ」 Haleole (1997:397)

タヒチ語にもトピックを前置する文はあるが、ho'i が表れる例は見つからなかった。

- (15) (T) Te mīmī, tē 'amu nei ia i te i'a.
 冠詞 猫 進行 食べる 近称 それ ~を 定 魚
 「猫は、魚を食べている」 Lazard et Peltzer (2000:60)

タヒチ語のトピック名詞句には ho'i が付加されていないことに加えて、トピックのマーカである前置詞'o も用いられていない点も含めて、他の二言語と異なっている。

3.2.4 接続詞句末

全ての言語で、述語句でも名詞句でもない接続詞句の句末に fo'i~ho'i が表れる例があった。

- (16) (S) 'Āfai 'o se e 'ai tū i luma o se ali'i pe tautala,
 もし ~だ 不定 未完了 食べる 立つ ~で 前 ~の 不定 貴族 又は 話す
 e fa'asalaina lea, 'āfai fo'i e amo tū se to'i i lumafale
 未完了 罰する それ もし 強調 未完了 持つ 立つ 不定 斧 ~で 家の前の地面
 o se ali'i e fasia lea tagata.
 ~の 不定 貴族 未完了 打つ その 人
 「もし貴族の前で立って食べたり話したりしたら、その人は罰される、**もし**貴族の家の前の地面で
 斧を立てて持っていたらその人は打たれる。」 Steubel and Herman (1987:76)
- (T)... 'ahiri ho'i 'oe i na reira, ua ha'amau roa ia Iehova
 もし 強調 あなた 完了 そのようにする 完了 続ける 強調 前方照応 神
 i tō 'oe mana toroa ari'i ra...
 ~を あなたの 力 職位 王 遠称
 「**もし**あなたがそのようにしていたら、神はあなたの王としての力を続けさせた。」
 サムエル記上 13-13
- (H) Ina ho'i e hina ana ka 'ohu i ka makani, alaila, ua hewa
 もし 強調 未完了 吹く 中称 定 雲 ~に 定 風 それなら 完了 間違っている
 'o uka, ua hakakā māua me ua mo'o nei.
 場所名詞主語指標 山の上 完了 戦う 私達 ~と その トカゲ 近称
 「(もし雲が風下に吹いたら、トカゲとは戦わずに済んでいるが) **もし**雲が風に向かって吹いたら、
 その時は山の上では間違いがおこっている、私はそのトカゲと戦っている。」 Haleole (1997:473)

これらの事例については、あくまでも接続詞句ということで非述語句と同じ分類としてここに含めたが、接続詞が表れている位置が、述語位置と同じ、すなわち文頭位置であることを考えると、接続詞が述語句的に扱われているという可能性も考えられる。

実際、例えば、上記の例文(16)(T)については、主語‘oe「あなた」に続く部分が<完了>の時制・相指標 i で始まっているが、この i は従属節で用いられる時制・相指標であることから、‘ahiri ho‘i ‘oe「もしあなたが」の部分はいわばこの文の主節として、その後の i na reira「そのようにした」は従属節として扱われていると考えられる。‘ahiri ho‘i ‘oe の部分が主節であるとする、この節全体は、<接続詞(‘ahiri「もし」)+主語(‘oe「あなた」)+その他>のような語順になっていると見ることができ、これは 1.1 節で述べた文の基本構造と類似している。そのようなことを考えると、接続詞句末に fo‘i~ho‘i が付加される事例については、この 3.2 節よりむしろ、前の 3.1 節で扱った述語句末の特殊な形と考えることができるかもしれない。

3.3 非句末位置

サモア語とタヒチ語では、句末ではなく名詞の前に、fo‘i~ho‘i が表れる例があった。いずれも限定詞と名詞の間という位置に表れたものであるが、冠詞の後ろに表れる例は見られなかった。

- (17a) (S) Ia, ‘o lenei fo‘i teine ‘ua fa‘amāvae fo‘i ‘i le tāne
 さて トピック この 強調 少女 完了 別れを告げる 強調 ~に 定 夫
 ‘ole‘ā sau lava e ō mai ma ona mātua.
 未来 来る 強調 未完了 来る 近接 ~と 彼女の 両親
 「さて、この少女は、夫に別れを告げた、彼女の両親と来て戻りつもりだった。」 Moyle (1981:164)
- (17b) (S) …i lona fo‘i olaga tautua ai i le Arts Council,…
 ~に 彼の 強調 人生 勤める 照応 ~に 定
 「彼の Arts Council に勤務している人生において..」 Samoa news Sat, 08/08/2015
- (17c) (S) …‘o i ai le isi fo‘i malaga tele.
 未完了 ある 定 別の 強調 旅 偉大な
 「偉大な別の旅がある。」 Krämer (1994:153)
- (17d) (T) Nō teie ho‘i tumu i mana‘o‘ore ai e fa‘ahapa iā de Gaulle..
 ~のため この 強調 理由 完了 思う 否定 照応 未完 責める ~を de Gaulle
 「この理由から de Gaulle を責めようと思わなかった..」 Saura (1997:320)
- (17e) (T) …‘aita ra vau e ora iā ‘oe nō tō‘oe ho‘i na‘ina‘i.
 否定 しかし 私 未完了 助かる ~に あなた ~のため あなたの 強調 ちいさい
 「あなたの小ささのため、私はあなたによって救われないだろう。」 Cuneo (n.d.:6)
- (17f) (T) A rave ‘oe i te pua‘atoro oni ‘āpī a tō metua ra,
 命令 取る あなた ~を 定 牛 雄の 若い ~の あなたの 親 遠称
 e te tahi ho‘i pua‘atoro oni matahiti hitu,…
 ~と 定 別の 強調 牛 雄の 年 七つの
 「あなたの親の若い雄牛と、別の一匹の 7 歳の雄牛をとりなさい。」 士師記 6-25

サモア語の例(17a-c)では限定詞という分類に含まれる語類のうち、指示詞 lenei「この」、所有限定詞 lona「彼女の」、isi「別の」の後ろに fo‘i が表れている。また、タヒチ語の例(17d-f)でも、同じく、限定詞という分類に含まれる語類のうち、指示詞 teie「この」、所有限定詞 tō‘oe「あなたの」、te tahi「別の」の後ろに ho‘i が表れていた。一方、ハワイ語ではこのような事例は見られなかった。

4 考察

4.1 三言語間の対照の結果

本稿では、サモア語、タヒチ語、ハワイ語の間で同系の小辞である fo'i~ho'i の用法について、特に文中の分布について、様々なジャンルの文字データを基に対照を行った。項目別の分布一覧を表 2 として示す。

表 2 三言語での fo'i~ho'i の分布比較

		サモア語	タヒチ語	ハワイ語
述語句末位置	述語名詞句末	○	○	○
	述語動詞句末	○	○	○
	疑問詞句末	○	○	○
	述語否定詞句末		○	○
	述語動詞句末 (意味弱化)	○	N/A	N/A
非述語句末位置	非述語名詞句末	○	○	○
	トピック名詞句末	○	N/A	○
	接続詞句末	○	○	○
非句末位置 (名詞の前)	指示詞の後	○	○	N/A
	所有限定詞の後	○	○	N/A
	「別の」の後	○	○	N/A

結果、全体としては、同じ特徴をかなり維持していることが分かった。三言語における fo'i~ho'i の分布の共通特徴は以下のようにまとめられる。

- (18) 一般的小辞 fo'i~ho'i は述語句末 (動詞述語・名詞述語に関わらず) と非述語名詞句末に現れる。

これらの三言語では疑問詞も述語位置に現れる。また、タヒチ語とハワイ語では否定詞も述語位置に現れる。尚、3.1.4 節で述べたように、サモア語にはそもそも対応する述語否定詞が存在せず述語否定詞句末における対照が意味をなさないため除外している。また、接続詞句末についても、厳密な意味では述語と一緒に出来ないかもしれないが、3.2.4 節で述べたように、接続詞句も述語位置に現れ、述語的な振る舞いをすることもあるため、(18)の一般化の中に含めることも可能と思われる。意味を弱化するサモア語の fo'i についても文中の位置という意味では述語動詞句末であり、これも(18)に含めることに問題は無い。

上記の(18)の一般化に含まれなかった部分、すなわち三言語の共通特徴としてはまとめることができなかった点については、以下の二つにまとめられる。

- (19) サモア語とハワイ語においては、トピック名詞句末にも fo'i~ho'i が表れ得る。
 (20) サモア語とタヒチ語では、限定詞 (指示詞/所有限定詞/「他の」) と名詞の間にも fo'i~ho'i が表れ得る。

系統的に見ると、ハワイ語とタヒチ語はポリネシア諸語内でも同じ下位区分である東部ポリネシア諸語に属するため、文法的或いは語彙的な共通点も、ハワイ語とタヒチ語の間のほうがより多く見られるのが普通である。しかしながら、上記の(19)も(20)も系統的にはより遠い間柄であるはずのサモア語とタヒチ語、或いはサモア語とハワイ語の共通特徴になっているという点で興味深い。残念ながら、なぜこのような差異が生じたのかについて、すなわち、なぜタヒチ語ではトピック名詞句末に ho'i が現れないのか、また、なぜハワイ語では限定詞と名詞の間に ho'i が現れないのかについて、現時点では、個々の言

語の文法上の特徴等と関係付けた説明は見当たらない。もしかすると、単なるデータのギャップによるものであり、今後データを拡充すれば、該当する例文が見つかるという可能性もあるかもしれない。

4.2 非句末位置における fo'i~ho'i について

最後に、サモア語とタヒチ語で現れる非句末位置、すなわち限定詞と名詞の間の位置に現れる fo'i~ho'i の用法について補足する。限定詞という語類には様々な語が属しているが、サモア語においてもタヒチ語においても、特定の限定詞に限って fo'i~ho'i の後置が見られた。それらは、指示詞、所有限定詞、「他の」である。もう一つの代表的な限定詞である冠詞に後置される例は見られなかった。指示詞、所有限定詞、「他の」は、いずれも限定詞単独で名詞句として用いることが出来るという共通の特徴がある。一方で、冠詞は単独で名詞句として用いることはない。以下、単独で名詞句として用いられている限定詞に下線を付して表記する。

(21a) (S) ...'ia tusa fo'i lo'u i'uga ma lona.

～するように 同じ 強調 私の 最期 ～と 彼の

「私の最期が彼のと同じになるように」民数記 23-10

(21b) (S) A 'o lona tau'i sili lenei.

そして ～だ 彼の 報酬 最高の これ

「これが彼の最高の報償だ。」Henry (1980:120)

(21c) (S) ...e leai se fesoasoani e la'itiiti ifo lona aogā mai i isi.

未完了 無い 不定 助け 未完了 小さい 下方 それの 価値 近接 ～より 他の

「他よりもその価値が小さいような助力はない。」Moyle (1981:48)

(21d) (T) E toto hui ari'i tō 'oe, ...

～だ 血 王族 あなたの

「あなたは王族の血を持っている。」Manu-Tahi (1980:94)

(21e) (T) 'ua reva teie.

完了 発つ これ

「これ(私)は発った。」Lazard et Peltzer (2000:164)

(21f) (T) Te ta'ata o tei fa'atietie i te tahi, e ora ona

定 人 ～だ 関係代名詞 褒める ～を 定 他の 未完了 生きる 彼

mai te peu, e fa'aro'o te tahi iā na.

もし 未完了 聞く 他の ～を 彼

「他人をほめちぎる人は、もし、他人が彼のことを聞いてくれれば生きる。」Sylvain (2008:51)

例文(21a)と(21d)は所有限定詞が単独で名詞句を形成している例である。例(21d)は所有を表す構文であり、直訳すると「**あなたの**は王族の血である」のようになる。例(21b)と(21e)は指示詞が単独で名詞句を形成している例である。また、例(21c)と(21f)は「他の」という意味の限定詞が単独で名詞句を形成している例である。このように、単独でも名詞句を形成できるほど独立性の高い限定詞の後ろという位置であるため、単独では名詞句を形成することがない、すなわち独立性の低い、冠詞と比べて、本来名詞に後置される fo'i~ho'i が表れやすいのではないかと考えられる。

該当する例が見られなかったハワイ語について、Elbert and Pukui (1979:159)は数詞が名詞の前に付加された場合のみ名詞の前に強調辞が現れ得るとしている。

(22) (H) 'elua ho'i mau manu 'Iiwipōlena e kau ana ma nā po'ohiwi o ke Ali'i,...

二つ強調 複数 鶏 Iiwipolena 未完了 とまる 中称 ～に 複数 肩 ～の 定 貴族

「2羽のイイピポレナ鳥がその貴族の肩にとまっている。」Haleole (1997:435)

例文(22)では数詞‘elua「二つ」に ho'i が後置されている。数詞も限定詞とみなせば、上記のような例も<限定詞+ ho'i+名詞>の例となる。しかしながら、数詞の振る舞いは極めて特殊であり、数詞と名詞句の結合体、例えば例(22)の‘elua ho'i mau manu ‘I'iwipōlena という部分は、そもそも、「二羽のイイビポレナ鳥」という意味の名詞句として分析すべきなのか、それとも「イイビポレナ鳥が二羽いる」という意味の一つの文として分析できるのかという根本的な点についても議論の余地がある。サモア語やタヒチ語も同じ状況である。そこで、本稿では、ハワイ語だけではなく、サモア語やタヒチ語についても、限定詞に関連する議論から数詞を除外した。数詞を含む例文の分析については、別途個別に論じるべきであると考えらる。

謝辞

本研究は日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C) 25370455「ポリネシア諸語における様々な小辞の機能・用法に見られる差異について」の研究成果の一部である。また、査読者の方々から貴重なコメントを頂いた。この場を借りてお礼を申し上げたい。

文献

- Académie tahitienne, Grammaire de la langue tahitienne, Papeete: Fare Vāna'a, 1986.
 Académie tahitienne, Dictionnaire tahitien-français, Papeete: Fare Vāna'a, 1999.
 Alexander, W.D, Introduction to Hawaiian grammar, Mineola: Dover publication, 2004.
 Andrews, Lorrin, A dictionary of the Hawaiian language, Honolulu: Island Heritage publishing, 2003.
 Beckwith, Martha W., Kepelino's Traditions of Hawaii, Honolulu: Bishop Museum Press, 2007.
 Biggs, Bruce, The Languages of Polynesia, in Linguistics in Oceania edited by Bowen, J. D. et al., Mouton: The Hague, 1971.
 Chruchward, Spencer, A Samoan Grammar 2nd Edition, Melbourne: Spectator Publishing, 1951.
 Cuneo, Taema, Tini, te i'a i herehia ia Hina, Pirae: Editions Vahine. n.d.
 Daubard, Patrick Matarii Millaud, Hiriata Histoire et traditions de Huahine & Pora Pora, Papeete : Ministère de la culture de Polynésie française, 2000.
 Davies, John, A Tahitian and English dictionary, New York: AMS Pr., 1978.
 Elbert, Samuel H. and Pukui, Mary K., Hawaiian Grammar, Honolulu: University of Hawaii Press., 1979.
 Fornander, Abraham, Fornander collection of Hawaiian antiquities and folk-lore vol. IV, Honolulu: Bishop Museum Press, 1916-1917.
 Fornander, Abraham, Fornander collection of Hawaiian antiquities and folk-lore vol. IV, Honolulu: Bishop Museum Press, 1918-1919.
 Hale, Horatio, Ethnography and Philology, United States Exploring Expedition, 1838-1842.
 Haleole, S. N., Ka Mo'olelo o Laieikawai, Honolulu: First People's Productions, 1997.
 Henry, Fred, Talafaasolopito o Samoa, Apia: Commercial Printers, 1980.
 Krämer, Augustin, The Samoa Islands, Honolulu: University of Hawaii Press, 1994.
 Krupa, Viktor, The Polynesian languages, London: Routledge & Kegan Paul, 1982.
 Lazard, Gilbert and Peltzer, Louise, Structure de la langue tahitienne, Paris: Peeters, 2000.
 Lemaître, Yves, Lexique du tahitien contemporain, Paris: Éditions de l'IRD, 1995.
 Manu-Tahi, Charles Teriiteuanua, Te parau o te mau vahi faufaa no te mau tupuna i Moorea, Papeete: Les Éditions Veia Rai, 2005.
 Milner, G. B., Samoan Dictionary, Auckland: Polkynesian Press, 1993.
 Mookini, Esther T., O na holoholona wawae eha o ka Lama Hawaii, Honolulu: Bamboo Ridge Press, 1984.
 Mosel, Ulrike and Even Hovdhaugen, Samoan Reference Grammar, Oslo: Scandinavian University Press, 1992.
 Moyle, Richard, Fagogo. Auckland: Auckland University Press, 1981.
 Musée de Tahiti et des îles, E'ori i tō iho tupu, Papeete : Musée de Tahiti et des îles, 2002.
 Pawley, Andrew, The relationship of Polynesian outlier languages, Journal of Polynesian Society, vol. 76, p. 259-296, 1967.
 Pratt, George, Pratt's Grammar and dictionary of the Samoan language, Apia: Malua Printing Press, 1977.
 Pukui, Mary K. and Elbert, Samuel H., Hawaiian Dictionary revised and enlarged edition, Honolulu: University of Hawaii Press, 1982.
 Saura, Bruno, Pouvanaa a Oopa, Papeete: Au vent des îles, 1997.
 Saura, Bruno et Hiriata Millaud, ligné royale des Tama-toa de Ra'iatea, Papeete : Ministère de la culture de Polynésie française,

2001.

Sio, Gatoloaifaana P., Tapasa o folauga i aso afa, Apia: U.S.P Center, 1984.

Steubel, C. and Brother Herman, Tala o le vavau, Auckland: Polynesian Press, 1987.

Sylvain, Teva, 19 fables de La Fontaine en tahitien, Papeete: Pacific Promotion Tahiti, 2008.

The American Bible Society. Baibala hemolele, New York: The American Bible Society, 1993.

The Bible Society in the South pacific, Te parau a te Atua, Suva: The Bible Society in the South pacific, 1997.

The Bible Society in the South pacific, O le tusi paia, Suva: The Bible Society in the South pacific, 1984.

Wahlroos, Sven, English-Tahitian Tahitian-English dictionary, Honolulu: University of Hawaii Press, 2002.